

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域住民との交流を深めることを理念にうたっている。 ・理念に基づいたサービス提供に心がけるよう職員間で確認している。	理念を玄関や室内に張り出し、いつも確認できるように配慮されており理念に準じて地域との交流を大切にしている。(子供たちを対象としたわくわく教室)(芸術祭への参加)(保育園主催の七夕祭り)	地域参加は活発に行われているが、利用者が「穏やかにゆっくり」自分の希望に沿った暮らしがより可能となるような取り組みを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所の行事に参加していただいたり、散歩や買い物のときに声を掛け合ったりしている。 ・児童館の小学生が定期的に訪問してくれたり、町主催の敬老会等にも参加し交流を図っている。	施設利用者は大部分が地元出身であり更に立科町行政組織による運営であり地域との密接な交流の中で運営している。有線放送などを施設内に流しており配慮されております。	更に理念にしたがって地域交流の輪を広め、へ開放的な施設になるように期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所においてヘルパー2級養成講座を開催したり、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・グループホームの現状を説明し、それぞれの意見を聞いている。	年1回、運営推進会議を開催している。	運営推進会議は年1回のみであり更に利用者及び利用者家族情報を如何に収集して改善につなげていくことが課題です。また話し合われたことは記録に遺しましょう
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・行政法人なので町との連絡は密に行っている。	立科町行政組織の運営であり適切に対応しております。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・事業所全体で取り組んでいる。	施設職員に対しては「身体拘束ゼロへの手引き」をテキストとして教育、研修をしており周知徹底を図っております。正面玄関の施錠はない、但し防犯上敷地境界でのセンサーを設置しております。	可能であれば施設の状況、内容にあった独自の「身体拘束マニュアル」を作成されることを望みます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所全体で取り組んでいる。		

ハートフルケアたてしなグループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会の機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約前にホームの様子を見て状況確認していただいた後、文書と口頭にて説明している。 ・解約の際も理由を明確に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段の会話の中から感じ取り、それを職員間で話し合っている。 ・第三者委員を設置している。	「申し送りノート」を作成記録して利用者、家族等の意見、要望を収集して運営に反映しております。	利用者、家族が本音が言えるような数多くの機会と創意工夫が必要です。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所に運営委員会を設置しており、職員の意見や提案を聞いている。	「職員との対話」の中で職員の方にお聞きして施設だんらん会議(月1回)では職員意見が反映されていることを確認しました。	職員との「個別ミーティング」「個別面談」等を実施されることを希望します。職員に対する教育・研修は年間計画をたてて実施することが必要です。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事評価制度を導入しており、職員が目標を持って働けるよう勤めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所全体で取り組んでいる。また研修会後は全体会議の折に発表している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・広域や連絡協議会等で交流会を持ち、勉強会や相互訪問等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・自宅又は施設等に訪問し、本人の話をよく聴き信頼関係が築けるよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・自宅又は施設等に訪問し、本人とは別に家族の話をよく聴き信頼関係が築けるよう努力している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本人にとっての必要な支援を最優先し、他のサービス利用も考え対応していくようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人の出来ることを把握し一緒に行ったり、生活の知恵を教わったりしながら馴染みの関係を作っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・面会時や必要に応じて電話で現況を伝え、お互いの立場を考慮しながら支援している。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・家族には出来るだけ関わっていただけるよう配慮している。</p>	<p>利用者希望に従って「ふるさと訪問」に協力、支援をしている。更に出身地の「敬老会」への参加を支援している。</p>	<p>細かい行き届いた配慮をされております。</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・利用者一人ひとりの個性を見極め、トラブルを最小限にし、穏やかな生活が送れるよう支援している。</p>		

ハートフルケアたてしなグループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・同事業所内で情報を交換し、様子を聞いたりしている。 ・いつでも立ち寄っていただける雰囲気作りをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で把握し対応している。また家族からも情報をいただくようにしている。	すぐ近くに畑を作って収穫出来た物は食卓に載せたり、漬け物をつけたりして今までの得意な事を生かしている。	本人の希望に可能な限り寄り添い笑顔の多い日が送れるように支援してあげましょう。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・経験や性格を知り、本人・家族からの情報を得ながら日々の生活に活かしている。また今までサービスを受けていた事業所からも情報を得る。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の生活のリズムを崩さないよう配慮し、有する能力を發揮できるように心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族からの意向や要望を確認し介護計画を作成している。 ・状態の変化時はその都度、または定期的な話し合いの機会を持ち、内容の見直しを行っている。	介護保険の認定更新時には本人、家族とのミーティングを行い意見、希望など日常業務に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々に気付いたことは毎日個別ケースに記録し、常に目を通して情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の状況により、通院・外出等の支援は柔軟に行っている。		

ハートフルケアたてしなグループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事に参加したり、ボランティア等の受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族が付き添い受診したり、定期的に往診していただいている。 ・緊急時や必要時は職員も付き添い状態を伝えるようにしている。	毎月施設担当医の往診を受けている。本人が希望すればかかりつけ医の診察などは臨機応変で対応しております。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同事業所内の看護職員に相談・助言を受けたり、往診時に来てくれる看護師とも連携を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院先の医療機関と話し合いの機会を持ち、家族の意向を聞きながら行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時や家族会等で説明している。 ・家族とその都度話し合い、主治医と相談しながら支援している。	契約時には本人、家族とのミーティングを行い説明し施設の考え方を伝えているが、重度化した場合は他の施設や病院に移行していくので、今までは直面しなかった。	今後家族や利用者の状況によっては終末期の看取りの希望が出てくることが予想されるので対応について検討を深めていくことが大切とされます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事業所全体で研修をおこない、いざという時のために備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の防災訓練をおこなっており、地域の住民のにも参加していただき協力を得ている。	災害対策マニュアルを作成しております。防災訓練は年2回実施されており地域との連携協力体制は充実している。	災害対策マニュアルの中の連絡網には電話番号などを入れることが望ましいです。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーに配慮し、さりげない対応を心掛けている。	プライバシー保護に関する「個人情報取り扱いマニュアル」により職員研修を実施しております。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者に合わせた声かけをおこない、会話や行動の中で感じ取り一緒に共感している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの気持ちを大切にしており無理強いはいしない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行きつけの美容院に行ったり出張してもらい、希望に沿ったスタイルにさせていただいている。 ・特に外出時は一緒に洋服を選び、おしゃれして出掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・お茶の準備、食材の下ごしらえ、テーブル拭き、片付け等声かけしながら出来る範囲でお願いしている。	昼食を一緒にさせて頂き、食事材料の下ごしらえ準備、盛り付け手伝い、食器の洗い桶収納、テーブル拭きなどの食事を楽しむことの雰囲気を確認しました。スタッフも同じテーブルで食事をしており気配り、雰囲気づくりに配慮している。	おしゃべりしながら、和やかな食事でした。しょくじを大切な活動の場として捉えていると思います。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの好みを大切に、盛り付けや味付け等工夫している。 ・職員と一緒に食事を摂っているため、食事・水分摂取量は把握できている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後歯磨きや入歯の手入れなど、個々の状態に合わせて行っている。		

ハートフルケアたてしなグループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・毎日排泄の様子を記入し、個々の排泄のサイクルを把握しながら対応している。	個人別に「トイレ誘導状況」を記録しております。日常管理としては個人の特性に応じて排泄の声かけ、介助などきめ細かい支援をされています。	現状維持で充分です。少しでもおむつを着けなくて済むように、排泄サイクルを活用することを望みます。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分や食物繊維の多い食べ物を摂取したり、散歩等行い運動の機会を作っている。また排便表をもとに医師や家族と相談し、服薬等の対策を取っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日は一応決めてあるが、拒否や失禁等があればその都度対応している。	入浴に関しては本人の希望に応じて入浴の日が決められており(入浴表の掲示有り)ます、週3回位を目安とされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・それぞれの落ち着いた場所で、安心して過ごせるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方されるたびに用法や用量を確認し、薬の説明書に職員全員が目を通している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常の中で、その方の得意としていることをしていただいたり、出番の機会を作り支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は戸外に出掛け、季節感を味わっていただいている。 ・毎月全員で遠出をし外食を楽しんだりしている。 ・家族と協力し、個々に外出支援を行っている。	個人が希望する外出は支援している。毎日の食材等の買い物は近所なので希望者には同行して頂き日常的な外出支援をしている。	自然の豊かな立地条件を生かして日常的な外出は行われており、全員での外食も行われている。懐かしい土地に出かけることは健康上活性化につながると思うので、スタッフの皆さん頑張ってください。

ハートフルケアたてしなグループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣いとして家族より預かり、金銭管理は職員が行っている。 ・外出時は本人の希望によりお小遣いの中から買い物を楽しんでいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたい希望のある時は応じ、年賀状等を書いて投函している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールには温かみを感じるストーブを設置しており、冬場はその周りで暖を取っている。また畳スペースにはほとんどの皆さんが集まり、テレビを見たり会話を楽しんでいる。	施設は建設して4年であり整理整頓されており畳スペースがあり住みやすさ、居心地よさに配慮しております。ペレットストーブを採用しております。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・それぞれ食堂の椅子や周りにあるソファーに自由に座って過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族の意向で、慣れ親しんだ小物や寝具を持ち込んだり、行事や家族と撮った写真を飾り温かみのある居室づくりを心掛けている。	利用者個人の希望を反映されております。個人の居室を2部屋確認させて頂きました。使い慣れた家具や写真、電気毛布、あんかなどを使用している。	殆どの時間を共用スペースで過ごすので、個人の部屋は介護のこともありベッドがあれば充分かもしれませんが、畳のスペースを生かした居室づくりにもう一工夫があればさらによいと思います。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下・トイレ・浴室等に手すりをつけ、安全に行動できるよう配慮している。 ・トイレを表示したり居室の入り口に名前を張ったりして混乱しないよう配慮している。		